

大阪ガス エネルギー・環境
文化研究所 首席研究員 豊田 尚吾

現在の社会や生活をどう感じていますか

(回答者 4991 人、単位：%)

※単一回答だが、丸め誤差のため、合計が 100%にならない場合がある

	1	2	3	4	5	1+2の 合計
	むしろ 思う	どちらか といえば 思う	どちらとも いえない	どちらか といえば 思わない	そう 思わない	
社会の格差が広がって階層化しつつある	31.4	47.0	16.8	3.5	1.3	78.4
個人の所得は周囲の人々のおかげであって、自分だけのものではない	9.1	35.6	36.8	14.3	4.2	44.7
地域社会に思いやりがなくなりつつある	15.9	48.4	28.7	5.9	1.2	64.3
地域全体の福祉向上のため、自分も何か貢献すべきである	7.0	47.6	36.8	6.4	2.2	54.6
私の生活は、地域の人たちによって高められている	3.8	25.5	45.5	18.3	6.9	29.3
地域の人たちと私の生活は大きな関わりを持っていない	6.9	24.6	38.9	24.0	5.7	31.5

出所：大阪ガス エネルギー・文化研究所「生活意識に関する調査（2008）」より

エネルギー・環境など、社会の効率を低下させるような課題への配慮行動について述べてきた。しかし倫理的消費を考える場合、このような視点だけでは十分ではない。例えば、効率以外に分配がある。

現在、生活者の多くは社会の格差が拡大しつつある問題である。「正義」とは何かが問われる問題である。

あると感じている。格差問題は経済成長すれば、自然に解決するようない。これは前回までのように、効率や効用という価値基準で判断できるものではなく、社会の「正義」とは何かが問われる問題である。

正義実現は他者との連帯感から

しかし効率の実現では有用な経済学も「量的・形式的レベルでの効用と非常にシンプルな価値理念だけで経済の規範問題を片付けてしまおう」ために「パレート最適」という発想の根幹を成す効用主義の枠を超えることはない」（山脇直司著「経済の倫理学」）。これは経済学が正義を実現する倫理と遊離し、分配の問題に関してはあまり役に立たないことを指摘したものと理解できる。

社会には個人の自由を何よりも重視して私有財産権の侵害を忌避する人もいれば、社会保障という観点から自由の制限に對してある程度寛容な人もいる。共同体内の共通善を尊重すべきという考えの人も多い。社会制度のあるべき姿（正義）に対する基本的な考え方が異なり、合意形成は難しい。多数決による形式的な政治的合意だけでは意見の対立を解消し、社会の紐帯を太くする倫理は生まれてこない。ではどうするのか。実感としての他者との連帯感にヒントがありそうだ。当研究所によるアンケートでは、個人のお得が他者のおかげでもあると考えている人が半分以上いる。どんなお金持ちももしよせん一人では何もできない。ほかの人々と助け合いながら生活せざるを得ないのが現代の分業社会である。したがって、格差があまりに広がって、自分以外の人の生活が成り立たなくなれば、結局それが自分自身の生活にも跳ね返ってくる。

アンケートにも地域社会に貢献したいという強い思いが表れている。一方で、地域社会との積極的なかわりを感じている人は必ずしも多くない。そこで、次からは地産地消のような、地域社会との関連で倫理的消費を考えてみたい。それは地域で活動する企業にとっても参考となるに違いない。